



日塗工 整理No.(日塗工記入)		2016-44		労働災害状況調査表		
発生会社 事業所						
災害発生日時		2016年 8月1日(月) 14時30分 天候(晴天) 温度(33℃)湿度(55%)				
災害区分		不 休 災害		休業災害(休業:0日)		
被災者	部門	製造課 充缶班		雇用形態	正社員、 <u>派遣</u> 契約、その他()	
	年齢	36歳	性別: <u>男</u> 女	勤続年数	5ヶ月	
	傷病名	切創 全治7日間				
	傷病部位	右前腕				
災害発生状況			状況概略(写真orイラスト)			
	1. 廃棄塗料置き場で、塗料を廃棄する際に、缶を切り、ヘラで掻き出す作業を行った。					
	2. 気が付いたら血が流れ切れていた。傷を負ったタイミングでは気付かなかった。					
	3. 素手で作業を行っていた。					
	4. 上長に報告。病院で診て貰う事になった。(浅めの切創だったが、4cmくらい長く、絆創膏の範囲を超えていた)					
	災害の型 ^{※1)} : 6 切れ					作業の形態: 定常、 <u>非定常</u> 、その他()
起因物: 天切り缶		特記事項: 派遣社員として入りたて				
原因分類	1. 人的要因(man)	安全教育を受け天切り缶の危険性は教育されていたが、暑い最中の屋外作業でゴム手をせずに作業していた。				
	2. 物に関する要因(machine)	皮スキを使用しており、手を缶の中に入れないと届かなかった。				
	3. 環境要因(media)	塗料の沈殿が激しく掻き出しが困難であった。				
	4. 管理的要因(management)	手空き時間の作業指示だけで、使用道具などの適切な指示が出せていなかった(製造現場には柄の長い掻き出し用のヘラがある)。				
対策	<ul style="list-style-type: none"> 再度、身を守るための安全作業教育を行った。 夏の作業着が半袖なので夏場は常時用意されている腕カバーを防護具として用いる。 従来より用意されている掻き出し用のヘラを使用する。 沈殿が固い場合は、底を切って出す。 					
	対策分類 ^{※2)} : 1-1安全情報、1-2想定と対応、2-4危険認識、2-6学習伝承					

※1) ①から選択

※2) ②から選択(複数可)